資料4

大村市幼児教育・保育支援センター いっぽ

いっぽだより No.3

令和５年９月 発行

『幼保小連携・接続の大切さ』の研修へのご参加、ありがとうございました！

８月３日（管理職の先生方を対象に）と８月24日（一般の職員の先生方を対象に）、小学校の先生方と幼児教育・保育施設の先生方の合同研修会を開催しました。

小学校のスタートは「はじめの一歩」ではなく「つづきの一歩」。立場を越えて互いの子どもの姿などについて語り合ったり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして演習したりなど、パワーと愛情の溢れる研修会となりました。

※下記はいただいた感想の一部です。

【小学校の先生方より】
＊こうして対面で話すことが連携・接続の第一歩だと思った。
＊これまで、要配慮児童の引き継ぎ、小学校準備としての交流が幼保との連携の中心だった。一歩踏み込んだ話ができてよかった。
＊「共通のまなざし」を手に入れて、子どもたちのために取り組もうと思った。
＊「10の姿」を核として、子どもたちの成長へどのように関わっていけばよいかを再考することができた。幼保の先生方と様々な意見交換ができて有意義だった。心が動く授業をしたい。

【幼児教育・保育施設の先生方より】
＊小学校はずっと敷居が高いと思っていたが、このように話すことで近くなることを実感した。
＊普段、小学校の先生とじっくり話し合う機会がないので、意見をうかがうことができ、とても実りある時間となった。今後も続けてほしい。
＊子どもたちを保育・教育する教職員が現状を捉え、相互に理解することが大切だと思った。
＊幼児期の子どもたちにとって「遊び」がどれだけ重要であるかがわかった。「10の姿」を目標としてではなく、遊びの先で子どもの中に育つように関わっていきたい。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以下「10の姿」）は 到達目標ではなく「振り返るためのポイント」です。

活水女子大学の福井謙一郎先生は講義の中で、幼児期の学びを発達の側面から「10の姿」の捉えとともにお話ししてくださいました。

福井先生がお話されたことはまさに『幼児期にふさわしい教育』。幼児期は安定した情緒の中で、自己を発揮しながら主体的な遊びを通して「学び」を獲得することが重要です。例えば「10の姿」の項目のひとつに「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」がありますが、個別に取り出し小学校の先取りをして、園で一斉にドリルを経験させるなどということではありません。遊びの中で様々な直接体験を通して、感覚として身につけていくことが大切です。子どもたちが自由に遊ぶ積み木遊びやままごと遊びの中に、砂場遊びの中に、鬼ごっこの中に、他愛のないおしゃべりの中に・・・大人にとって、名前のない何気ないように見える遊びや生活の中にも、子どもの心が揺れ動く「学び」につながる要素は散りばめられています。子どもの興味・関心をベースとしながら、小学校以降の「自覚的な学び」にどうつながるかを見据えて、遊びの環境や援助を考えていきたいものですね。「10の姿」を手掛かりとして、子どもの姿を読み取り、自分の関わりを振り返ってみませんか？

※演習で使用した事例のひとつを添付しています。「10の姿」を捉えるひとつのきっかけとして活用してみてはいかがでしょうか。

園内研修で一緒に学ばせていただきました（8月29日）

４月に、星美幼稚園さんより「子どもの特性に応じた具体的な配慮のあり方を学ぶ」をテーマとした園内研修充実に向けてのコーディネートのご依頼があり、実施の運びとなりました。

今年度より巡回相談に同行していただいている、言語聴覚士で教育委員会でも発達支援アドバイザーとしてご活躍中の田中智香子先生が、星美幼稚園さんからいただいた事前資料をもとに、『ひとりひとりの子どもの育ちにふれる』と題しお話ししてくださいました。自分自身の子ども時代を語り合う中で、誰もがもっている「傾向」や「特徴」に気付いたり、「子ども自身がどう困っているか」を考えたりなど、子どもの行動の「見えない部分を読み解くヒント」を感覚の育ちを中心にご教授いただきました。個々の特性を知り理解しようと努力すること、集団活動をする中でも、職員同士で連携して個別に合わせて対応を工夫することを学びました。

【先生方の感想】

- **子どもの思いに気付くことが大切。考えるきっかけになった。**
- **「困り感」は職員と同じく子どもも感じている。**
- **見えない部分を見られるようになりたい。**
- **揺れたり回ったりなど、感覚に訴えかける遊びや運動の大切さを知った。**
- **「～ねばならない」ことを改めることの大切さを知った。**

今後、具体的にどのように実践できるのかをまた勉強しながら、月ごとにまとめていきたいとのこと。

園長先生はじめ、真摯に子どもたちと向き合っておられる先生方の熱意が、ひしひしと伝わってきました。ありがとうございました！！

☆環境を通した遊びを中心とした教育・保育について
☆子どもとの関わり方や言葉かけについて
☆環境の工夫について
☆指導計画について
☆保育記録の書き方・活用について
☆保護者対応について　　など

※園全体に限らず、隙間時間を利用した少人数の学び合いのための訪問等もお受けします。
まずはお電話でご相談ください。（幼児教育・保育支援センター　いっぽ：46－5881）

いっぽ♡いっぽ

～ポジティブ応援団～

「ネガ」から「ポジ」へ

「ネガポ辞典」という本をご存知ですか？ネガティブな言葉をポジティブに変換してくれる、読むだけで明るくなれる本です。ちょっと古いですが、今から10年ほど前に、北海道の高校生らが発案して書籍化され、11万部を超えるベストセラーになりました。

例えば・・・キレやすい→素直（自分のしたいことを素直にできる）
流されやすい→人の意見を尊重できる（人の意見に納得し共感することができる）
老けている→先駆者（周囲の面々よりも一歩先を歩いている）　　などなど・・・

時々、この本を読み返してはクスっと笑い、自分自身の「ネガ」な気持ちを「ポジ」に変換しています。

子どもと関わる時にも、この変換はなかなか役に立ちます。片付けが苦手な子を例に例えると、片付けないことに目が行きがちですが、①片付ける場所を見た　②片付けるものを手に取った　③ひとつだけ先生と一緒に片付けた・・・など完全ではなくても「ポジ」に変換して、その状況を言葉で認め嬉しい気持ちを伝えられたらいいですね。そして、子どもだけではなく、「ポジ」に変換できた自分も、褒めてあげてください。ネガポ辞典マインドで、人と関わっていきたいものです。

※「ネガポ辞典」：主婦の友社

大村市幼児教育・保育支援センター　いっぽ

資料4

（TEL/FAX：0957－46－5881）

いっぽだより　No.5

令和５年12月　発行

一年の終わりである師走。園によっては、発表会やクリスマス会などの行事もあり、文字通り走り回るような忙しい毎日を過ごしておられることと思います。大晦日の夜は「今年も頑張った自分」をおおいに褒めてあげましょう。そして「来年挑戦したいこと」などミカンでも食べながら考えてみるのもいいですね。皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

放虎原こども園公開保育（11月15日）

さわやかな秋晴れのもと、小学校などからも合わせて50名の先生方にご参加いただきました。参観後の協議会では、この日に至るまでの子どもたちの姿や保育者の意図について、５歳児担任の斉藤尚子先生から説明があり、その後、グループに分かれて協議を行いました。

学校教育課の指導主事、入口瞬先生より「人との信頼関係を築くことが全ての教育の土台。学びはつながっている。幼児期の学びの芽生え、児童の自覚的な学びとのつながりを意識しながら、遊びを展開したり授業を工夫したりしてほしい」と幼保小連携・接続の視点から指導助言をいただきました。互いの教育・保育を振り返ったり、幼児教育と小学校教育のつながりを考えたりなど、実り多い１日となりました。

『みんなのゆうえんち』をつくろう！！

運動会に向けての取組後、5歳児を中心に運動会ごっこが数日続きました。運動会ごっこが下火になってきた頃、保育者は運動遊びの経験を更に広げ、協同的な関わりを深めて欲しいという意図をもって、園庭に巧技台やフープやロープなどの環境を用意してみました。遊ぶだけではなく、保育者は毎日の遊びの振り返りの時間も、とても大切な環境構成のひとつとして捉えています。その中で5歳児は「小さいお友達も楽しく遊べるように名前をつけよう」「看板を作ったらいいよね」「スタートやゴールの印があるとぶつかったりしないかも」などなど、考えを出し合いながら発展させていきました。子ども自身が遊びの中で必要感をもって、文字にふれたり数を数えたりなどの環境も意図してつくっています。

看板を
つくろう。
ぼくは『み』を
かくね。

スタートと
ゴールを
わかるように
しよう。

「やってみたい！」「やってみよう！」が生まれる環境づくり

放虎原こども園では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の具現化に努めています。発達段階に応じた各学年の育ちを踏まえつつ、子どもの「やってみたい！」「やってみよう！」が実現できるように興味・関心を捉えながら遊びの環境を子どもと共につくっていきます。子どもたちが、自分たちで楽しく遊びを発展させていくために、気付きを伝え合う機会をつくったり、失敗しながら試行錯誤を繰り返す場や時間を保障したり、友達とぶつかったりしながらも折り合いをつけられるように仲立ちしたりなど、自分たちで遊びや生活を進めていく手応えを感じ、自信をもって生活できるように働きかけています。

ドキュメンテーションで「遊びの中の学び」を可視化しよう

運動会ごっこを通して、子どもたちは心身を十分動かして遊んできました。そこでもっといろいろな運動遊びを通して、自ら心身を動かす心地よさ、友達と挑戦する楽しさを感じてほしいと願い、環境づくりに務めています。

自己発揮が十分にできるようになると、周りにも目が向くようになります。小さいお友達にも優しく接し、喜んでもらえると心が満たされます。異年齢児との関わりが、あちこちで見られます。

友達の姿に刺激を受けたり、友達同士で励まし合ったり、苦手なこと、出来ないことにも「やってみよう」という気持ちを認め、支えています。それが、その子の自信につながると願いつつ関わっています。

大きいお兄さん、お姉さんの姿を見て、1，2 歳児さんもチャレンジ！！まねっこすることから、遊びの楽しさ、面白さを感じることにつながっています。

幼児教育は「見えない教育」だと言われます。保育者が子どもの経験を読み取って次の保育につなげる「経験カリキュラム」と言えるでしょう。保護者や地域には、子どもの行動だけではなく、保育者が子どもの育ちにおいて何を願って環境を構成しているのか、子どもが主体的に遊ぶ中で「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」とあわせて、遊びの意味と重要性を伝えていきたいですね。

笑顔いっぱい　楽しく遊んでふれあおう（11 月 2 日）

子育てアドバイザー、幼児教育・家庭教育専門家の熊丸みつ子先生の笑いあり涙ありの講話と楽しい実技で、あっという間の 2 時間でした。

子どもと向き合っていると、思い通りにならないことも多く、ついイライラしてしまうこともあります。熊丸先生は、私たちが抱えるそのような思いを丸ごと受け止め「順調よ！」と励ましてくださいました。明日からまた頑張ろうと思える研修会でした。

いっぽ♡いっぽ

～ポジティブ応援団～

子どもの主体性を支える基盤は「安心感」

先日『保育実践充実推進のための中央セミナー』に参加した際、武庫川女子大学教授の倉石哲也先生の人権についての講演の中で、次のようなお話がありました。

自立とは･･･自分の力で出来るようになること
出来ないことを人に頼れるようになること

＊子どもは、思い通りにならない「つまずき」を様々な場面で体験しています。親から叱られたり、友達とけんかしたり、少しばかりシビアな体験もしています。その時は言い訳を並べて、人の責任にし、イジイジし、泣くこともあります。このようなネガティブな体験をしている際、子どもたちの支えになるのは誰でしょうか？

＊子どもにとって誰かに支えてもらえる、支えとなる安心感が、少しばかりシビアな体験をやり過ごす（立ち向かう）ために必要なのではないでしょうか。

愛着の視点からみると、子どもが、泣いたり、癇癪を起こしたり、駄々をこねたり、衝動的になったりする行為は、日常的に関わる大人との間で、情緒的な安定を取り戻そうとする行為だと言われます。「失敗しても大丈夫」「間違いは誰にでもある」など子どもの不安な気持ちに共感的に寄り添いながら、子どもの“できない”を保障していくことが、周囲の人や自分への信頼感を育てるベースとなっていきます。とは言っても・・・それらを受け止めることが難しく悩むことも多々ありますよね。まずは基本に立ち返り、一人一人の子どもの“安心”とは・・・安心感から生まれる子どもの姿をイメージし、関わりを振り返ってみたいと思いました。

資料４

大村市幼児教育・保育支援センター いっぽ

いっぽだより No.9

令和６年６月 発行

木々の葉が青々と茂り、夏の予感を漂わせています。

今年度も当支援センターへ、巡回相談や個別の相談、教育・保育力向上研修会に続々とお申し込みいただいております。よりよい教育・保育について、また、一人一人に応じた支援について、現場の先生方と共に考える機会をいただき、大変ありがたく思っております。今後もご相談の際にはご遠慮なく、まずはお電話でお知らせください。（TEL：46-5881）

『幼児教育と小学校教育の連携と接続の推進について』
研修会へのご参加、ありがとうございました！

６月５日（水）、小学校、教育委員会等で大変ご活躍された、現在たけまつこども園の西村仁志園長先生よりご講演いただきました。**小学校でも幼児教育施設でも一人一人を大切に思う気持ちは同じであること。一人一人の背景やその子のよさに目を向け、言葉に体温をのせること。幼児期にどの子も愛すべき存在として無条件に受け入れられる経験・記憶を刻むこと。幼児期に非認知能力を育てる豊富な体験が重要であること（「やりたいことがある」「もう少しだけやってみよう」「あとちょっとがんばろう」の環境構成）などなど、**これまでの数々のご経験を交えた温かいお話は、心の奥深くに響き、会場全体が引き込まれました。また、講演後のグループ協議では、情報交換とともに「できることから」「いつものことにちょっとプラス」のアイディアも出され、子どもを中心に据えた「つづきのいっぽ」の連携が図られました。

※下記はいただいた感想の一部です

【小学校の先生方より】

＊連携・接続といっても一人一人の子どもを大切に思うこと、どのような背景で子どもたちが園や学校に通ってきているのか、過ごしているのか思いを馳せることが大切です。そのことが今日の研修会で改めてよくわかりました。非認知能力高めていきます。

＊改めて学校でももっと一人一人の子どもたちを理解して大切にしなければと思いました。本校の職員にも伝えていきます。

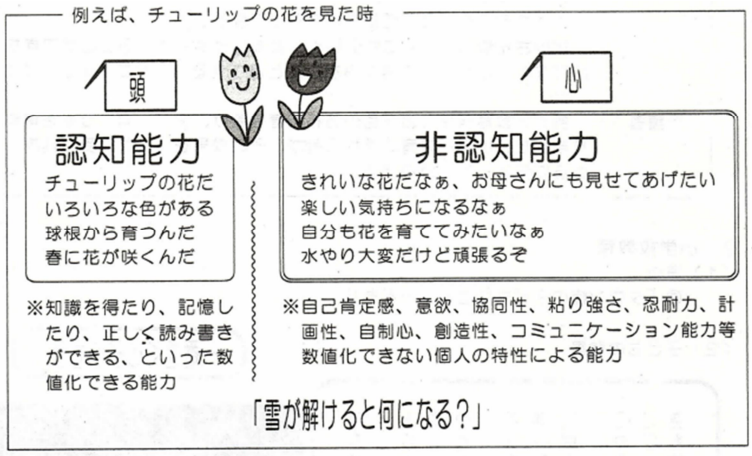
＊できることから、身近なところで持続可能な連携を目指したいと思います。

【幼児教育・保育施設の先生方より】

＊西村先生のお話は、本当に体温ののった温かさを感じました。子どもたちに「大好き！」をいっぱい伝えたいと思います。

＊両方の立場からの講義を受けて、互いに同じ思いをもっていることがよくわかり、難しく考えなくても交流する機会が増えていけば、強いつながりはできていくのではないかと安心し、楽しみにも感じることができました。

＊他園の先生方や小学校の先生方の思いを直にお聞きすることができ、垣根や壁が低くなったように感じました。このような機会がもっと増え、小学校が身近になればと思います。



※たけまつこども園 西村仁志園長先生講演資料より

一番遠くの子を思う
さりげなく、誰一人取り残さない援助を
「大好き」は魔法の言葉

グループ協議では、様々なアイディアが出されていました。

できることから

まずは、お互いに無理なくスタート！

いつもの行事や活動にちょっとプラス

先生がつながる

管理職がつながって → 連携窓口を確認

子どもがつながる

園だより、学校だよりの交換

園や小学校の参観日に訪問

夏休みを利用して情報交換会

など

お互いの行事を応援（運動会総練習など）

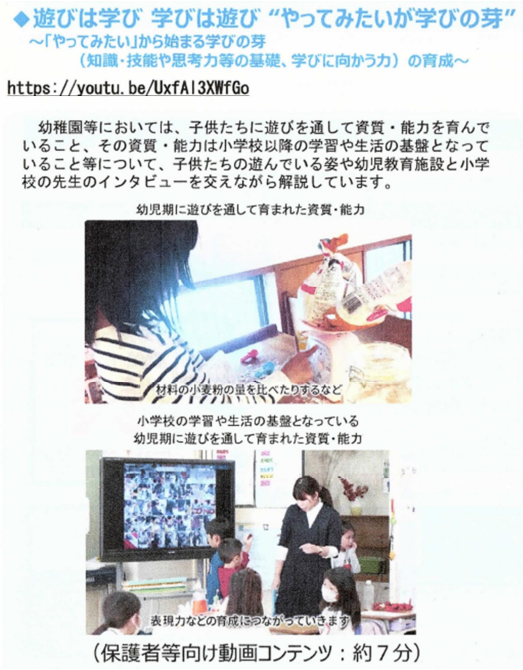
お散歩コースに小学校を

交流活動（一緒に遊ぼう・学校探検など）

など

いっぽ♡いっぽ

文部科学省より、幼児教育と小学校教育の接続について、解説動画と参考資料が出ております。「やってみたい！」から始まる、幼児期の遊びを通した学びが小学校の各教科等の学習にどうつながっているのか見える化されたものです。幼児教育を改めて考える材料のひとつとして、保護者へ発信するためのヒントとしてなどなど参考にしてみてはいかがですか。



（保護者等向け動画コンテンツ：約７分）

（幼児教育及び小学校教育関係者向け参考資料）

※令和６年度幼児教育推進体制事業 第１回意見交換会資料より

【動画コンテンツ】

遊びは学び 学びは遊び“やってみたいが学びの芽”
～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～

【参考資料】

幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？

◆問合せ先◆

大村市幼児教育・保育支援センター いっぽ

〒856－0832 大村市本町 413 番地２（大村市こどもセンター２階）

ＴＥＬ： 0957-46-5881 ＦＡＸ： 0957-46-5881

Email： youkyou@city.omura.nagasaki.jp